

神奈川 山梨教会連合会報

かりん

常に祈りをもって

良いタイミングを頂く

南先生は、昭和三十七年一月十五日に早稲田教会にて二人兄妹の妹としてお生まれになりました。昭和六十二年に現登戸教会長とご結婚。高校三年生の長女と高校一年生の長男の二人のお子さんがおられます。

☆世間では、今の子供は「キレやすい」とか「人間関係が希薄」とか言われていますが、お子さんや周りの人からそういう話があったりしますか？

南先生(以下南) 色々な話はちょこちょこ聞きますね。長崎で起きた事件と似たようなので、「友人が〇〇さんに、〇〇さんのブログ(ネット上で公開する、日記のようなもの)で、『今日ある人に、こんなことをされて死にたくなかった』とか、書かれて落ち込んでた」とか、信者さんのお子さんが、携帯のメールで、ある子の悪口を書きあげていたから携帯を取り上げた、とか。

☆すごいですね(汗)

南 自分達の子供時代とは違うな、と感じます。

☆直接言えばいいのに。ブログやBBS、

メールでだと、余計にややこしくなるだけだと思えますが。便利なものっていうのも時にやっかいだったりするんですね。

南 結構友人関係のことで相談っていうかグチを聞かされるような時もあるんだけど、

その時に「今、このみ教えを教えてあげたいな」って時があるのね。でも、グチを言っている時とかタイミングがずれていると、良いみ教えでも聞い

川でスベって山でコロんで……とってきました

Interview

第12回 南 恵子先生(登戸教会)



てくれない。逆に反感を持たれたり。

現代の子供に限らずだけれど言いたい時に、言いたいみ教えを言うだけではダメで、その人にスッとみ教えが入るような、良いタイミングで話せるおかげを頂く事が、大切だと感じます。

頭ごなしにみ教えを話しても、その人の心に入っていかないことが多いですし、☆それって難しそうですね。

南 そうですね。なので私は「良いタイミ

ングで話せますように」と常にお願いをさせて頂いています。何時そのタイミングが来るか分からないですからね。神様から良いタイミングを頂いてお話が出来た時は、良い結果が出るが多いですね。

☆常に祈りをもって、ですか。なるほど。南 特にお結界に座らせて頂いての御用の時は、なるべく人間心が出ないように気を付けてます。思わず言いたくなる時もあるけれど……。ご信者さんで、来られる度にくよくよしている方がおられたりするので、

「まーまー、大丈夫だから」とか言うのは良くないな、と気を付けてるの。そう言うタイプの方には、まずこちらが話を聞かせてもらって、同意して安心させてあげる事が大事だと思う。で、み教えをさせてもらう時は「人間心ではなくて、神様の話をさせてもらえますように」とお願いして話をします。難しいけど。だって、自分の経験なんてしれていて、そんな中身を話したって仕方ないからね。

☆確かに、ご信者さんの方がご年配、ってケースは多々ありますもんね。

南 ご信者さんもタイプが色々だから、人間心で一方的に話しても、うまくいかなかったりしますよね。『タイミング』と『良いみ教え・フレーズ』を神様から頂けるようお願いして、させて頂く事が大事だと思う。☆ありがとうございます。

☆ありがたうございました。

これからの教会連合会について

大変難しいテーマを頂いた。特に「これからの」というところがである。この三年余、連合会活動に参加できず、最近の実情には極めて疎く、語る資格はないと一度はお断わりしただけに、ピント外れの点はお許しいただきたい。

適切な例えかどうかは別として、信心は布織物のような面があると考えている。織物は縦糸と横糸のバランスがいのちである。縦糸が弱かったりゆるいと横糸を強く締めても、出来上がった織物は歪んだり腰も弱く、模様も一様でない。

信心での縦糸は、神と人との関係、結果取次と考える。横糸は人と人の関係、それぞれが頂いたおかげの内容の表現というか実践の場であろうか。教会での信徒会などの活動や社会活動であり、連合会活動である。どんなことでも取次の場に持ち込んでほしいと願っているが、縦糸の緊張関係は、ひいては横糸の連合会活動にも、直接にしろ間接にしろ関与してくると思っっている。これは、今回の病気を通しての実感である。

○
信徒部の進めてきた「金光教を考える会」の報告にもあるように、信心の継承、

布教の難しさは誰もが抱える問題である。

信奉者と未信奉者の間の、中間層ともいうべき「金光教のファン、金光教の名を知っている人達」の層が薄くなっており、信奉者と未信奉者が背中合わせの状況が、社会への布教の難しくしている一因ではなからうか。

金光教の知名度を上げるために、金光教を知ってもらうために、種々なことが継続的に実施されているが、すぐに効果の出るものではない。地味であるが大切な活動であり、身近なところで「名広め活動」が出来ないだろうか。

一例として、教会参拝や他教会での会合に行く時に、その教会の場所を聞く、知っている場合でも意図的に、例えば商店の人などに聞くのである。そして、帰りに再度寄って必ずお礼を言うことが大切である。勿論、知らないと言った人にも…である。

これは、商品発売の販売促進策からの転用であるが、知らない人いきなり金光教を説明するより、ずっと楽であろう。金光教、教会、場所の印象を持ってもらい、その上に私の体験からも「金光教の人は、どこか違う」との評価を聞けば、嬉しいものである。

○
(藤沢教会 高橋 紀代士)

ひと夏が過ぎて

この夏、子どもたちはどのように過ごしたのだろうか。

花火をする場所がないと娘から聞かされ、また一つ、子どもの世界がしぼんでいくのを覚え気が気ではない。公園があっても、ボール投げダメ、自転車ダメ、そして花火でもある。ブランコも鉄棒も、最近危険だからという理由で取り払われてしまった。家の前で遊んでいると、生活音の範囲内と思われるようなことでも、注意を受ける。

それだけでも子どもの周辺は厳しい。少子化問題は、児童手当を上げれば済むと言うような単純なことではないと思うのだが。

それにつけても私たちの子どもの頃のことか思い出される。私は自然に囲まれた四国の田舎で育った。夏休みは六時半のラジオ体操で始まり、夕方に仕掛けていた漬け針をみんなで揚げに行き、我が家で自主的にそろばんの練習をすることもあった。また昼食後は、ひと休みしたら川で夢中で遊んだ。

一時間ほどすると「もう時間よ」という声で川から引き上げてくる。家では、とうもろこしやスイカなどのおやつが待っていた。そして、お腹が一杯になり、家族中大の字になってのお昼寝だ。それから目が覚めたら網を持って虫を追いかけていた。

教会連合会

親子のつどい「地引網」

夏休みも後半に入った八月二十日(土)に、親子のつどいが催され、二宮の梅沢海岸におじいちゃんおばあちゃん、おとうさんおかあさん、子どもたち、教会の先生、総勢四十九名が集い、のんびりと楽しい一日を過ごしました。

猛暑が続く中でも秋を感じさせる絶好の天気で、心もウキウキと期待に胸ふくらませていたのですが、予定していた場所の波が高くて念願の地引網の方は見送りということになりました。みんな諦めかけていたところ、近くで地引網が始まり一緒にその気分を味わわせて貰うことが出来ました。

その後は、すいか叩きやビーチフラッグなどをして、おとなも子どもも一緒に楽しいひとときを過ごすことが出来ました。

なかには海の風を受けて大の字になってお昼寝する姿も見られ、それぞれに身も心もリフレッシュされたようでした。

昼食に出された、じっくり煮込まれた鯖の煮付け、玉ねぎとしらすの掻き揚げの美味しかったこと。その上に、生ビールや耐ハイ、ジュースなども飲み放題となり、すいかもいっぱい頂いて海での一日を満喫することが出来ました。最後にごみ拾いをし、再会を誓い合って散会となりました。

楽しかった『親子のつどい』にて



参加者全員で「ハ～イ・チーズ」



広い砂浜でゲームなど…楽しい一時を

それがどうだと思われるかも知れないが、ひとりゲームに浸っているのは訳が違い、冒険あり発見ありでワクワクしながら、友だちと自然と目いっぱい遊んだことを思い出す。貧しくとも、なんと豊かだったことだろう。遥か昔の自分のことを言っても仕方がないが、しかし、子どもたちにも孫たちにも、出来るだけそのような直の体験をさせてやりたいと、頻りに思われてならない。

我が家の狭い庭には、ナス、トマト、キウリ、ピーマンなどが育っている。孫たちにも、もいで食べてもらいたいと言う願いもある。もう一つ、ほうずきも赤い実をつけている。このほうずきをやっとの思いで種を抜いてキューキューと鳴らすのだ。

チビちゃんたちは、見よう見真似で口を振らせてみたものの、当然のこと、うんともすんとも、いかなかったのは言うまでもない。その頃の遊びというのは、だいたいこのように、誰かに教えられてと言うまでもなく、しつこく遊んで自らこつを掴んでいくと言うものだ。そんな思い出は枚挙にいとまがない。

去年に引き続き、この夏も「わくわく塾」とやらをして、子どもたちと遊んだ。伝えたいことも、いっぱいある。まだまだ、おじいちゃんおばあちゃんの出番も、ありそうだ。

生神金光大神大祭日程表

津久井教会	10月15日(土)	13時30分
横浜西教会	10月16日(日)	13時30分
教会設立二〇年記念大祭		
甲府教会	10月16日(日)	13時30分
開教一〇年祭		
鎌倉教会	10月23日(日)	13時30分
登戸教会	10月23日(日)	13時
大明教会	10月28日(金)	13時30分
横須賀教会	11月3日(祝)	13時30分
生麦教会	11月3日(祝)	13時
丸子教会	11月3日(祝)	13時
相模原教会	11月3日(祝)	14時
子安教会	11月6日(日)	13時30分
鶴見教会	11月11日(金)	13時
武蔵小杉教会	11月13日(日)	11時
大磯教会	11月14日(月)	13時
川崎教会	11月18日(金)	13時
平塚教会	11月19日(土)	13時
野毛教会	11月19日(土)	13時30分
小田原教会	11月23日(祝)	13時
設立一〇年記念祭		
神奈川教会	11月26日(土)	13時30分
藤沢教会	11月28日(月)	13時30分
南甲府教会	(未定)	

▼お知らせ 東京センター▲

☆金光セミナー2005

「未来世代に戦争を語り継ごう」

〜東京多摩に残る戦跡を訪ね

平和を考える〜

日時 十月二十九日(土)

十三時 JR武蔵小金井駅北口集合

(車で移動)

十六時三十分 懇談会

(金光教東京寮集会所)

場所 掩体壕跡(調布市)〜旧日立航空

立川変電所跡(東大和市)〜東京寮

体験発表 服部 実氏

(碑文谷教会在籍信徒)

関口 昭子氏

(東京教会在籍信徒)

参加費 無料

申込み 参加希望の方は、10月25日まで

電話(〇三)三八一八一六三二二

E-mail: tokyo@konkokyo.or.jp

▼お知らせ 教会連合会▲

☆教会連合会 運営会議

日時 十月二十四日(月) 十三時三十分

場所 金光教丸子教会

☆教会連合会 教師会

日時 十月二十六日(水) 十三時三十分

場所 金光教藤沢教会

発題 横山光雄師

〈な・が・れ〉

賢治の「鎔岩流」に立つて

甲府教会 依田智徳

目の前の山麓は、一面大小の安山岩塊に覆われて、頭上の曇天とよく似た暗雲色をしていた。

岩手山の裾野に広がる焼走り溶岩流跡。詩人宮沢が「鬼神の住処」と詠んだ所だ。

18時の風に乗って「新世界」が聞こえた。振り上げば南部片富士(岩手山)。夕闇と瓦斯とに包まれて貞々黒くそびえ立つ。肩口の残光がまるで、噴き出る血のようだ。あるいは貞々四年の噴火の投影。

この景色は詩人の時代と少しも変わらないそうさ。東の間、賢治と出会えた。

目に付く息するものは、所々砂漠のオアシスよろしく立っている松の木と、薄黄緑の苔ばかり。それでも確かに虫の声がした。これも悠久の時の中で、いつかは森や林に変わるのだろうか。

天地の間では人の一生など一瞬の出来事。だからこそ大切に生きたいと願う。

金光教神奈川山梨教会連合会

発行者 須賀院 明徳

編集責任者 横山 光雄

川崎市中原区小杉御殿町二一八二

〒211-0068 金光教武蔵小杉教会内